

みんなで話そう しまくとぅば

9月18日は「しまくとぅばの日」です

県では昨年、条例で九月十八日(く・とぅば)を「しまくとぅばの日」と定め、沖縄文化の基盤である「しまくとぅば」の普及・継承に取り組んでいます。

県内各地で親から子へと受け継がれてきた「しまくとぅば」。この機会に「しまくとぅば」について、考えてみませんか？

地域の言葉 しまくとぅば

しまくとぅばの「しま」は、『沖縄本島』、『宮古島』、『石垣島』などと言う時の「島」＝「アイランド」という意味ではなく、『生まれ島』などと使う場合の「しま」＝「集落、地域」を指します。

沖縄には各地域に独自のしまくとぅばがあります。例えば「ありがとうございます」という言葉ひとつとっても、沖縄本島では主に「ニフエーデービル」、宮古諸島では「タンディーガタンディ」、八重山諸島では「ニーファイユー」などさまざまな言い方があります。

しまくとぅばは、地域の中で受け継がれてきましたが、過去の標準語を励行する教育や都市化、核家族化などの生活環境の変化とともに最近では話すことはもとより、

聞くこともできない世代が増えていきます。

しまくとぅばは、地域の生活に根づいた言葉であり、琉球古典音楽や琉球舞踊、組踊、沖縄芝居など沖縄文化の源となるものです。しまくとぅばを継承していくことは、沖縄の文化を次世代へ継承していくことにつながります。

しまくとぅばに触れてみよう！

県では、しまくとぅばへの理解と関心を深めていただくことを目的に、さまざまな催しを実施しています。

七月には、広く一般から参加者を募集し、約二カ月間にわたり沖縄芝居体験講座を開催しています。劇団綾船の平良進さん、平良トミさんが講師を務め、方言・演技の指



導にあたり、講座修了後には成果発表を行います。

また「しまくとぅばの日」の九月十八日を中心に、しまくとぅばに関する講演や沖縄芝居公演のほか、沖縄県文化協会の主催による「第十三回しまくとぅば語やびら大会」



沖縄芝居体験講座の様子(平良進氏による演技指導)

も開催されます。

しまくとぅばに触れる良い機会ですので、多くの皆さまのご参加をお待ちしております。

地域の活動

県内の市町村や文化活動を行う団体でも、しまくとぅばへの理解と関心を深めるために、さまざまな取り組みが実施されています。

豊見城市文化協会では、市内の小学四年生から六年生を対象に、六月から八月の間の計十六回、「第三回しまくとぅば子ども教室」が開催されました。受講生は十二名で、



しまくとぅば子ども教室(豊見城市文化協会)

内容で、子どもたちは自然にしまくとぅばに親しむことができました。

子どもたちに受講のきっかけや動機について尋ねてみると、「祖父母の話す言葉の意味がわからなかった」、「方言を覚えて祖父母と話してみたいと思った」などの声がありました。

教室をとおして、地域の言葉であるしまくとぅばに触れると同時に、昔から受け継がれてきた地域の文化にも触れることのできる良い機会になったのではないのでしょうか。

しまくとぅばの日 関連行事

平成十九年九月十五日(土) ◆**県立郷土劇場**
●**第十三回「しまくとぅば語やびら大会」**

平成十九年九月十六日(日) ◆**県立郷土劇場**
●**講演会「抱きしめてしまくとぅば」** 講師：川満聡氏

●**沖縄芝居体験講座成果発表** 出演：劇団綾船・平良進・平良トミほか
●**しまくとぅば劇場** 出演：劇団綾船・平良進・平良トミほか
●**新作悲恋歌劇「冬の夜雨」**

平成十九年九月二十二日(土) ◆**宜野座村がらんまんホール**
●**沖縄芝居体験講座成果発表** 出演：劇団綾船・平良進・平良トミほか

●**しまくとぅば劇場** 出演：劇団綾船・平良進・平良トミほか
●**新作悲恋歌劇「冬の夜雨」**

自分のおじいさんやおばあさんほど年の離れた講師の指導のもと、楽しみながらしまくとぅばについて学びました。

講座では、子どもたちが書いた作文をしまくとぅばに訳し、おのおの発表したほか、身の回りの生活道具や野菜、動物などのしまくとぅばでの呼び方、沖縄のことわざなどについても触れ、分かりやすい

